

地域と学校がともに防災教育を進めるために【概要】

—— 地域防災教育コーディネーターの育成に向けて ——

なぜ地域防災教育コーディネーターが必要か

- 学校の防災教育だけでは守ることが出来ない災害に対し、地域と一体となった防災教育が求められる
- 教員の人事異動や自治会長の交代等による連携体制の途絶に左右されない、持続的な仕組みが求められる
- 地域住民との連携が「結節点」として必要不可欠である
- 地域と連携した防災教育が命を守る行動につながることから、その実践を地域に展開する役割を担う人材が必要不可欠である

先進8事例から見た役割

- 学校と地域の「橋渡し(結節点)」として機能
- 防災を教育課程(カリキュラム)に体系的に組み込む
- コミュニティ・スクールの議題に「防災」を取り上げる
- 避難訓練・防災マップ・防災劇など地域とともに取り組む防災活動を企画・運営
- 地域の実情に応じて、実行可能な防災活動を設計
- 防災教育を継続可能な仕組みにより実践・定着させる

コーディネーターに求められる5つの力

教育課程への位置付け力

防災を学校の年間授業計画に体系的に組み込む提案力

地域ネットワーク構築力

消防団・自治会・NPO・行政等をつなぐ調整力

課題解決の行動力

地域の災害リスクを把握し、具体的な防災活動を企画運営

共に学ぶ姿勢

上から教えるのではなく「一緒に学ぶ」という姿勢

次世代人材育成力

こどもの自己有用感を高め、「災害文化」を世代を超えて継承

連携を進める3つのステップ

STEP1

小さな一歩から踏み出す

地域の災害リスクの共有、合言葉・スローガンの設定、「見切り発車」でOK

STEP2

地域を巻き込んだ防災活動を実践

住民参加の避難訓練、地域住民への呼びかけ・炊き出し訓練、防災マップ・小説・劇による普及啓発

STEP3

プログラム策定とサイクルの構築

小中9年間を見通した体系的なプログラム策定、コミュニティ・スクール等の枠組み

コーディネーターの4つの担い手

学校の校長・教員

教育カリキュラムへの組み込みを主導

教職員OB・OG 卒業生

経験・人脈を活かした防災教育の推進

地域学校協働活動推進員

地域団体等との組織的連携の窓口

公民館職員等の行政職員

防災に関する専門知識を活かした橋渡し役



■コーディネーターが地域と連携し、防災活動の企画・運営を展開している様子